

# 国土交通省説明資料

---

令和4年3月29日

# 首里城復元に向けた取組

- 首里城は、琉球の建築文化や技術の粋を結集した城郭で、琉球王国時代（1429～1879年）は王宮・王府として使用。1925年に正殿が国宝に指定。1945年の沖縄戦で焼失。
- 首里城復元の機運を受け、沖縄復帰記念事業として行う国営公園事業として、平成4年に正殿等を復元。平成12年に世界遺産登録。令和元年10月の火災で正殿等9棟の建物が焼失。
- 現在、首里城復元のための関係閣僚会議（議長：内閣官房長官）で決定された「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、首里城正殿について、令和4年の本体工事着工、令和8年の復元に向けた取組を進めている。

## 首里城の状況



首里城正殿（火災前）



▲火災直後

現在（R4.3）の様子▶

## 首里城復元のための関係閣僚会議

首里城正殿等の復元に向け、関係行政機関の緊密な連携の下、政府一体となって対応するため、首里城復元のための関係閣僚会議を開催。

第4回会議（令和2年3月27日）において「首里城正殿等の復元に向けた工程表」を決定。

### 首里城正殿等の復元に向けた工程表（抜粋）

前回復元時の設計・工程を踏襲することを基本とし、今般の火災を受けて、防火対策の強化及び材料調達の状況の変化等の反映の観点で工程を定めることとする。

首里城正殿について、令和2年度（2020年度）早期に設計に入り、令和4年（2022年）中には本体工事に着工し、令和8年（2026年）までに復元することを目指すこととし、北殿や南殿等を含め復元に向けた取組を進めることとする。その際、復元過程の公開や観光振興など地元のニーズに対応した施策を推進する。

### 首里城復元のための関係閣僚会議 構成員

議長	内閣官房長官
副議長	内閣府特命担当大臣（沖縄及び北方対策） 国土交通大臣
構成員	総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、農林水産大臣

# 令和3年度の首里城復元に係る取組

- 令和4年の正殿の本体工事着工に先立ち、**木材の調達**や**木材倉庫の整備**に着手するとともに、復元過程の公開の取組の一環として、**正殿復元工事の見学用デッキ等を整備**。
- 令和2年度に決定した「首里城正殿の防火対策」を踏まえ、**正殿の防火対策の詳細**や**正殿工事中の防火対策**を決定するとともに、県と連携して**首里城の防火体制等の見直し**を検討。
- **正殿の赤瓦や塗装材への県産材料の活用**を決定するとともに、県や県内事業者等と連携し、**赤瓦の仕様の検討**や**試作瓦の製作**、**職人の人材育成の仕組み**を検討。

## ○木材の調達



国産ヒノキの調達(首里城公園外で保管中)

## ○復元過程の公開の取組

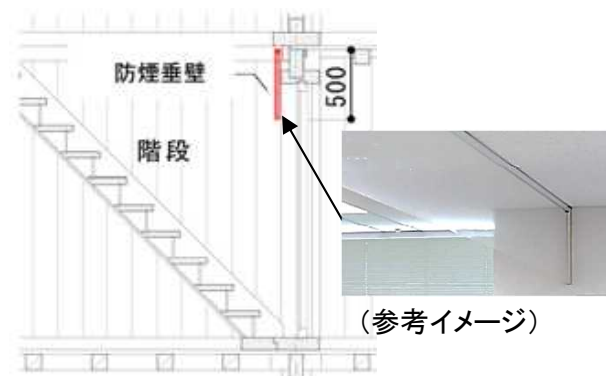


正殿復元工事の見学用デッキ

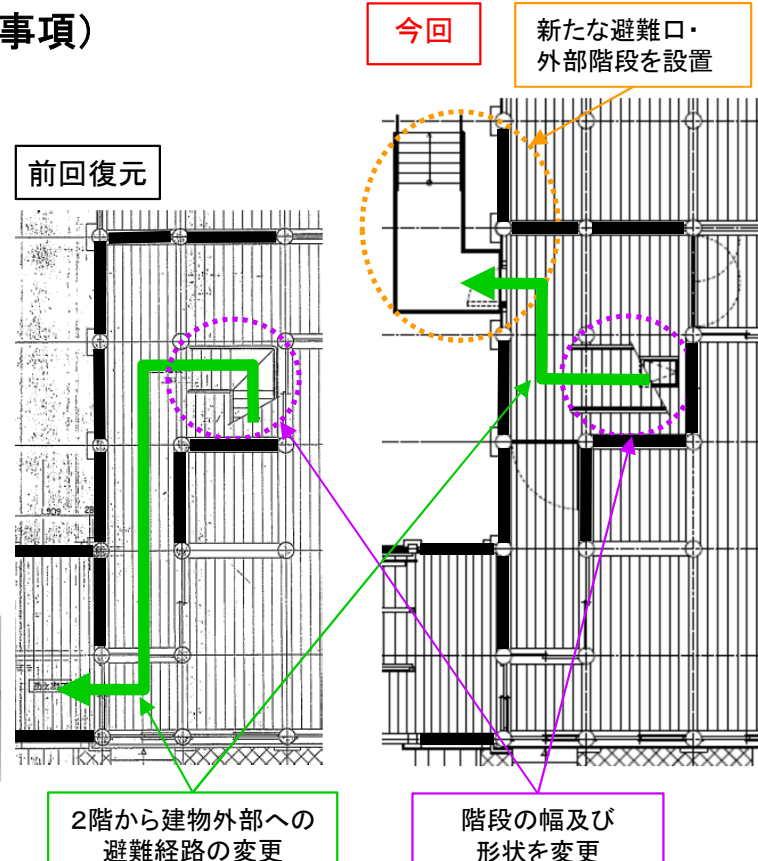
## ○正殿の防火対策の詳細(主な決定事項)



防煙区画への防火戸の設置



階段への防煙垂壁の設置



わかりやすくより安全な避難動線の確保

# 正殿の復元の概要

○「首里城復元に向けた技術検討委員会」での検討を踏まえ、令和3年度に正殿の実施設計を行い、以下を決定。

## ○建築概要

建築物の名称	首里城正殿
構造形式	木造重層3階建て、入母屋造、本瓦葺
建築面積	636.56㎡
延べ面積	1199.24㎡ (1階516.86㎡、2階516.86㎡、3階165.52㎡)

## ○設計の基本方針

- ・関係閣僚会議で決定された「首里城復元に向けた基本的な方針」「首里城正殿等の復元に向けた工程表」に基づき、前回復元時の基本的な考え方及び設計・工程の踏襲を基本とし、今回の火災を受け、防火対策の強化及び材料調達の状況の変化等を踏まえた設計を実施。

## ○正殿の復元の主なポイント

### <防火対策の強化>

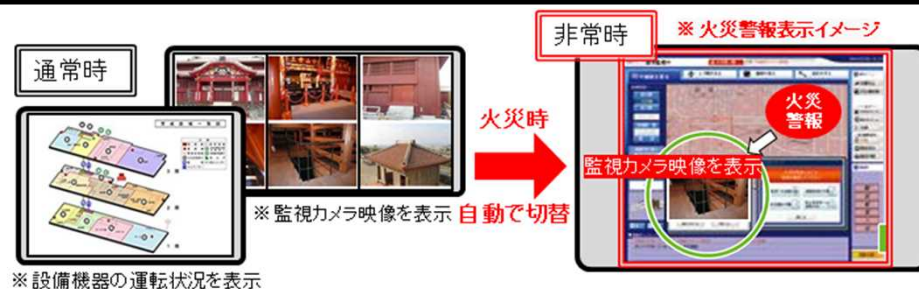
- ・技術検討委員会で決定した「首里城正殿の防火対策」等を踏まえ、火災時に迅速・適切な対応が可能となるよう、最先端を含む最適な防災・防火設備を設置。

### (主な防災・防火設備)

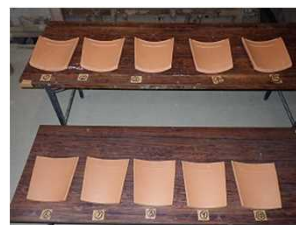
- ・火災感知器と連動し、自動巡回して火災を映す監視カメラ
- ・誤作動防止機能付のスプリンクラー
- ・消火用の水を城郭内に送る連結送水管 等

### <材料調達の状況の変化等の反映>

- ・構造材は国産ヒノキを原則とし、一部にイヌマキ、オキナワウラジログシを使用。台湾産ベニヒを彫刻材に使用。
- ・赤瓦には、沖縄本島産の材料を使用するほか、一部に正殿の破損瓦を粉碎（シャモット）して再利用。
- ・彩色・彫刻は、塗装材に久志弁柄や久米赤土、石彫刻に細粒砂岩をはじめとした県産の材料を活用。
- ・県等と連携し、県内の伝統技術の活用・人材育成を実施。



正殿の防災・防火設備のイメージ(上:監視カメラ・モニター 下:連結送水管)



奉神門補修時に製作された赤瓦



塗装材に活用予定の久志弁柄



前回復元時に細粒砂岩で制作された大龍柱

# 正殿等の復元に向けた今後のスケジュール

- 首里城正殿は、令和4年秋に本体工事に着工し、令和8年秋に完成予定。着工にあたり起工式等の式典を実施するとともに、工事期間中は復元工事の過程の公開等を行う予定。
- 北殿・南殿等の復元の進め方やスケジュール等については、今後引き続き検討していく予定。

	R4 正殿本体工事着工	R5	R6	R7	R8 正殿完成
正殿復元	発注手続き(WTO) 正殿本体工事				
	素屋根※整備	素屋根内で復元工事の過程を公開			素屋根解体
式典関係	会場設営 起工式・木曳式	立柱式や上棟式等の伝統建築に関連する行催事も検討			会場設営 完成式

※素屋根：復元工事中の正殿を雨風から保護するための覆いとなる建物

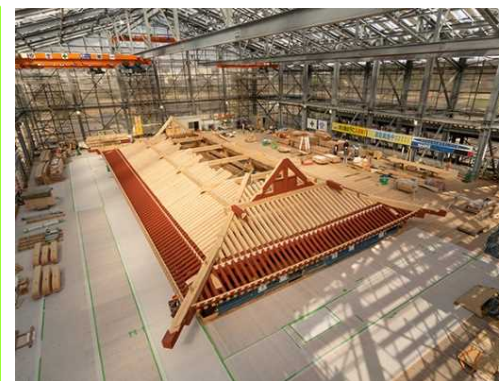
本体工事着工にあたり、国・県・財団が連携し、以下の式典等の実施を検討中

① 正殿起工式(仮称)：正殿復元工事の起工を記念した式典

主催：内閣府沖縄総合事務局  
場所：正殿周辺

② 木曳式(仮称)：正殿復元工事に用いる大径材の木遣等の行催事

主催：実行委員会(沖縄県、沖縄美ら島財団、国頭村、那覇市等)  
※委員長：沖縄県知事  
場所：国頭村内、那覇市内、首里城公園内



素屋根内における復元工事の公開イメージ

# 【参考】首里城正殿等の復元に向けたスケジュール

(年度)

		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9 以降
正殿	材料調査 (大径材)	<u>市場調査</u>						令和2年3月27日 「首里城正殿等の復元に向けた工程表」(抜粋)		
	設計		<u>基本設計</u>	<u>実施設計</u>						
	木材調達 (大径材)			<u>調達・乾燥</u>						
	工事	<u>仮設道路</u> <u>がれき撤去</u>		<u>木材倉庫</u>	<u>発注手続(WTO)</u>		<u>本体工事</u>			
北殿、南殿等			<u>撤去</u>	<u>正殿復元の施工ヤードとして使用</u>						
			<u>検討</u>						<u>工事</u>	